

## 特別講演

## 令和4年度 沖縄県小児保健協会学術集会 特別講演 ‘国家救援医’ 國井 修氏の講演を聴講して

名護療育医療センター 小児科医  
沖縄県小児保健協会 理事  
仲本 千佳子

令和4年6月4日、梅雨空の沖縄へグローバルヘルス技術振興基金 CEO國井 修先生をお迎えしました。長い海外生活を終えて日本に帰ってきたばかりで、ご多忙の中沖縄来訪の都合をつけていただき、現地入りしての講演が実現しました。厳しい現場を経験してきているとは思えない程の軽やかさと、強い情熱を感じさせる眼差しで、短い講演の中でも会員の皆さまは先生のお人柄を感じることが出来たのではないのでしょうか。

講演は「戦争、感染症、子どもの健康」と題して、ユニセフで経験された紛争や災害、貧困、隔絶された地域など社会的に深刻な課題を抱える地域へ保健医療を届けるためのお仕事の様子や、2000年に行われた沖縄サミットで構想されたグローバルファンド（世界エイズ・結核・マラリア対策基金）での感染症コントロールのお話を聞くことが出来ました。どのスライドも衝撃的でしたが、特に印象に残ったのは、人類の活動が及ぼす新興感染症、再興感染症への影響に関する事でした。この数年で都市人口が増え、エネルギー消費量が激増し、人々が世界規模で移動し、急速に森林が失われていくという事がどういう事なのか、世界の繋がりを深く考えさせられる話でした。そして、豊かな国家が自国の感染対策にかかる予算のほんの僅かな一部を、当事者意識を持って世界の感染コントロールのために投資することの大切さを伝えてくださりました。

今回の講演は沖縄が復帰50周年の年である事、ウクライナ戦争という平和と安全、国家主権について考えさせられる衝撃的な出来事があったことから、紛争地での保健医療支援に経験が深い國井先生を推

薦しました。

國井先生の書ききれないほどのご経歴は紙面を埋めてしまうので公式HPに譲ります。先生は私が学生時代に所属したアジアの医学生を中心とした学生団体「アジア医学生連絡協議会AMSA」の先輩で、当時から国際保健にかける情熱と行動力が素晴らしく、私たち後輩へ大きなモチベーションを与えてくださる存在の一人でした。自治医科大学のご出身なので、お仕事で沖縄に来られると、自治医科大学出身の先生方を始め、琉大医学部サークル「熱帯医学研究会」メンバーで先生を囲む会はいつも大盛り上がりです。カラオケが大好きで、いつでも歌って踊っていて、学生に間違われる程の快活さで人の中に入っていき、ブラジルに居ても、アフリカに居てもどんな文化圏の人との交流も楽しそうに話し、時に厳しい現場の話を淡々と語ってくださり、「世界」の繋がりを考えさせてくれる方です。

今回の講演は先生の眼差しを通して世界を見渡し、コロナを始めとする感染症の事、平和や貧困の事、SDGsの事、様々な事に思いを馳せる事が出来る時間でした。國井先生のこれまでのお仕事への敬意と、今後のご活躍をお祈りして、感謝の意を表します。

そして不確定な世情の中、戦後復興を成し得てきた私たち沖縄の先輩方への敬意と平和への決意を新たにしたいと思えます。

